

科目3

子どもの発達理解と  
児童期（6歳～12歳）の生活と発達

## 講師紹介

○講師：古見文一（ふるみふみかず）

○所属：静岡大学教育学部

○自己紹介：

京都大学文学部卒業

京都大学大学院教育学研究科修了（博士（教育学））

日本学術振興会特別研究員PD（神戸大学）、JSPS-ERC特別研究員（University College London）を経て現職

○専門：発達心理学・認知科学

○趣味：テレビゲーム、アニメ、特撮、トレーニング

# はじめに

# はじめに

## ○子育て支援員研修における本科目の位置づけ

- ・本科目は子育て支援員専門研修  
(放課後児童コース)として受講する科目

## ○本講義の目的

- ・放課後児童クラブでは、様々な年齢の子どもが、同じ場所で過ごすため、放課後児童クラブで働く子育て支援員は子どもの発達を理解し、育成支援に結び付ける必要がある

1. 子どもの育成支援のために子どもの発達の基礎を理解する
2. 発達からみた児童期の一般的な特徴を理解する
3. 児童期の生活と遊びを理解するために必要な発達の基礎を理解する

☆映像教材での学習ですが、能動的に学習に励んでください

本科目で網羅する  
シラバスの内容

1. 子どもの発達理解の基礎
2. 発達面からみた児童期（6歳～12歳）の一般的特徴
3. 子どもの遊びや生活と発達

1. 子どもの発達理解の基礎
  2. 発達面からみた児童期（6歳～12歳）の一般的特徴
  3. 子どもの遊びや生活と発達
- まとめ

# 1. 子どもの発達理解の基礎

# 1. 子どもの発達理解の基礎

## 発達とは何か？

★皆さんは、最近できるようになったことはありますか？

★反対に、昔に比べてできなくなったことはありますか？



発達

発達…受精から死に至るまでの、質的な変化

- ※何かができるようになるだけでなく、何かができなくなることも発達
- ※昔は、大人が発達の完成形と考えられていたが、現在は大人も発達していると考え生涯発達の視点が重要視されている
- ※発達は遺伝と環境の相互作用である（相互作用説）

# 1. 子どもの発達理解の基礎

## 発達を学ぶ意義

★皆さんは、嘘をつくことができるようになったのはいつ頃ですか？

★皆さんが、初めて誰かのことを羨ましいと思ったのはいつ頃ですか？

全ての大人は、子ども時代を過ごしたはずなので、自分を振り返れば、子どものことは簡単に理解できるはず…

実ははっきり覚えていない!!!

→発達を学び続ける必要がある

# 1. 子どもの発達理解の基礎

## 発達の区分

発達とは、受精から死に至るまでの質的な変化

とはいえ、大人と子どもの心の特徴を同じように捉えることは困難…

☆発達を時期によって区分する

発達段階	だいたいの時期	代表的な特徴
胎児期	受精から出産まで	胎動
乳児期	出産から1歳6か月頃まで	指さし
幼児期	1歳6か月頃から6歳頃まで	話し言葉の使用
児童期	6歳頃から12歳ごろまで	小学校での学び
青年期	12歳頃から22歳頃まで	第二次性徴
成人期	22歳頃から死まで	就労から退職

# 1. 子どもの発達理解の基礎

## 発達の時期区分ごとの特徴

- ☆乳児期…完全に大人に依存している時期。養育者とみつめあったり、養育者が世話をすることで情動の関わりを展開し愛着を形成
- ☆幼児期…家庭内のみの世界だけでなく、同年代の他者との友人関係を構築するように。第一次反抗期を迎え、自分のことは自分でやりたがる様子もみられるように
- ☆児童期…学校が生活の中心になる。小学校での学習が始まるとともに、より複雑な人間関係も構築されるように
- ☆青年期…性的な成熟（第二性徴）がみられる。自分の身体の変化に伴って自分のことを気にするようになる

# 1. 子どもの発達理解の基礎

## ピアジェの発生的認識論

子どもが外界の事物とどのように関わりながら思考を発達させていくかについて、スキーマ、同化、調節、均衡化という概念を用いて説明

- **スキーマ**…認識の枠組み（例：空を飛ぶのは鳥）
- **同化**…自分が今もっているスキーマに基づいて外界の事象を理解する（例：目の前を飛ぶツバメを鳥と認識する）
- **調節**…外界の事象に合わせてスキーマ自体を作り変えていく（例：空を飛ばないアヒルも鳥と認識する）
- **均衡化**…同化と調節を繰り返しながら、認識を次の段階へと能動的に発達させていく

# 1. 子どもの発達理解の基礎

## ピアジェの発達段階

子どもの認知発達について、操作という概念を用いて4つの段階に分けた

※**操作**… 行為が内化され、頭の中だけで考えられるようになること

段階	おおよその年齢	特徴
感覚運動期	0～2歳頃	外界の認識が感覚と運動に由来
前操作期	2～7, 8歳頃	頭の中の表象（イメージ）を使って外界を認識
具体的操作期	7～11, 12歳頃	具体的な対象に論理的思考を行える
形式的操作期	11, 12歳以降	抽象的な状況でも論理的思考を行える

児童期に含まれる

# 1. 子どもの発達理解の基礎

## 感覚運動期

物をしゃぶる、触る、他人と触れ合うなどの体験を通じて外界を認識し、行動を修正しながらスキーマを獲得していく

☆ **循環反応**…環境への働きかけを繰り返し行うこと

⇒吸う、叩くといった感覚運動的活動の反復を表すもので、既存のスキーマを修正・調節する働きを持つ

⇒ **第1次循環反応** (～生後3, 4か月) : 指吸いなど自分の身体に限定

⇒ **第2次循環反応** : シーツを引っ張るなど、物との関係で目と手の協応が成立

⇒ **第3次循環反応** (1歳ごろ～) : 物を落として音の響きを楽しむなど、能動的・実験的関わりを見せる

☆ **対象の永続性**…何かに隠れても事物はその陰に存在し続ける

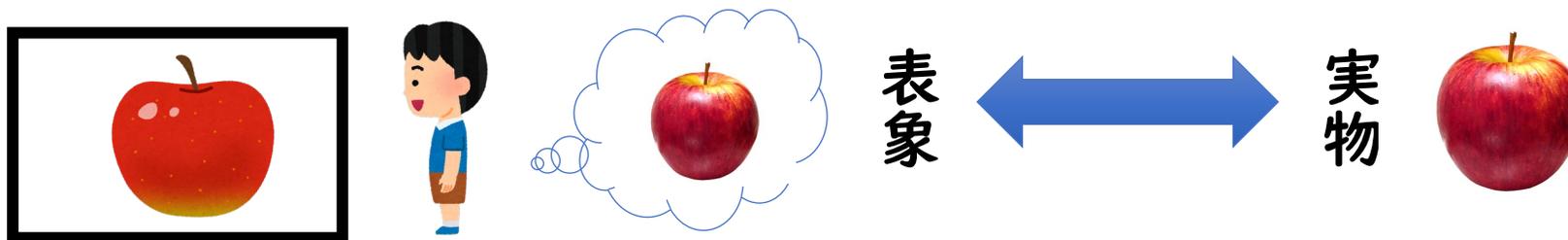
# 1. 子どもの発達理解の基礎

## 前操作期

感覚運動期に知覚したことを内面でとらえる時期

### ☆ 象徴的思考段階 (2~4歳)

表象 (イメージ) が発生し、目の前にないものを思い浮かべられるようになる。象徴機能 (ある対象や事物、事象を別のものに置き換えること) が発達



※ふり遊び、見立て遊びができるようになる

# 1. 子どもの発達理解の基礎

## 前操作期

感覚運動期に知覚したことを内面でとらえる時期

### ☆ 直観的思考段階 (4~7,8歳)

物事を関連付けられるようになる。直観に依存して判断するため、自己中心性やアニミズムという認知の特徴がみられる

- **自己中心性**…自分から見た視点でしか物事を捉えられない  
(例) 自分が見た番組は、みんな見たと思ってしまう
- **アニミズム**…自分と同じように無機物も生きていと捉えること  
(例) やかんが怒っているよ

# 1. 子どもの発達理解の基礎

## 具体的操作期

具体的な対象物に対しては、論理的な思考を行えるようになる。

☆**保存の概念**の理解…例えば、同じ量の水は、容器を入れ替えても同じ量のままである（液量保存）、同じ数のおはじきが2列に並んでいる時、一方の列のおはじきの間隔を広げて列を長くしても、数は同じ（数の保存）、といった保存の概念を理解するように



# 1. 子どもの発達理解の基礎

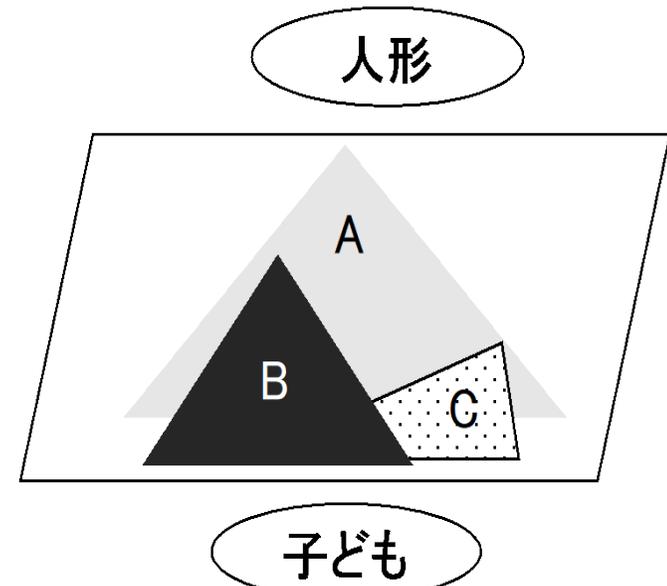
## 具体的操作期

具体的な対象物に対しては、論理的な思考を行えるようになる

☆**脱中心化**…自分の視点からだけでなく、他者の視点から客観的に物事を考えられるようになる

(例) 三つの山問題に正答できるようになる

三つの山問題…3種類の山とその他の模型を配置し、子どもに見せる。山の高さなどが異なるため、子どもとは反対側からは、子どもとは異なる景色が見える。反対側に人形を置くなどして人形の見え方を子どもに問う問題



古見・西尾(2022)はじめての発達心理学,  
ナカニシヤ出版

# 1. 子どもの発達理解の基礎

## 形式的操作期

具体物のない抽象的な状況に対しても論理的な思考を行えるようになる

### ☆仮説的思考や可能性の思考

- 関係間の関係などの二次的な理解  
(例) AさんとBさんは仲が悪いから3人ではなかなか遊びにくいな…
- 網羅的な可能性を考慮することによる見通しやプランニング  
(例) 時間的展望が、あこがれから未来志向に

### ☆科学的思考

- 変数の組み合わせの理解
- 比例概念の獲得  
(例) 速さの計算、文字を使った式 ( $y=2x$ など) の理解

# 1. 子どもの発達理解の基礎

## 形式的操作期

具体物のない抽象的な状況に対しても論理的な思考を行えるようになる

☆演繹的推論が可能になる

演繹的推論…前提条件から結論を導き出す推論

大前提	すべての鳥は動物である
小前提	すべての動物はえさを食べる
結論	すべての鳥はえさを食べる

※事実と矛盾していても推論できる

大前提	すべての鳥は吠える
小前提	すべての吠える動物は4本足である
結論	すべての鳥は4本足である

# 1. 子どもの発達理解の基礎

## エリクソンの心理社会的発達理論

☆**心理社会的危機（発達課題）**…人生の中で、人は、その後の発達に（プラス／マイナス）となる特質が優勢となる方向へ発達するのかの分かれ目に繰り返し立つ

※生物学的な成熟の程度だけでなく、文化・社会から期待される発達の目標を反映

心理社会的危機（発達課題）		特徴例
<b>基本的信頼感</b>	<b>不信感</b>	求めたとき授乳してもらうことで他者への信頼感を得て、自分の存在価値を認める一方、適切に授乳されないと信頼できず自分の存在価値を疑う
乳児期（0歳～1歳6ヵ月）		
<b>自律性</b>	<b>恥・疑惑</b>	トイレット・トレーニングが適切に行われると、自己コントロールできるという自律性が備わる。厳しすぎたり甘すぎたりすると自律性が芽生えず、恥を抱く、自分の力に疑惑をもつ。
幼児前期（1歳6ヵ月～3歳）		

# 1. 子どもの発達理解の基礎

## エリクソンの心理社会的発達理論

心理社会的危機（発達課題）		特徴例
積極性	罪悪感	親と同じように積極的に社会参加しようとする。積極的になりすぎると、他者からの攻撃や非難にあい、罪悪感を抱く
幼児後期（3歳～5,6歳）		
勤勉性	劣等感	自らの課題に挑戦し、それを成し遂げると有能感を抱く。課題を上手く成し遂げられないと、他者と比べて上手くできないという劣等感に悩む
児童期		
自我同一性 確立	自我同一性 拡散	「自分とはどのような人間か」という自分らしさを確立する時期であるが、自己意識が曖昧で不明瞭だと自分の人生を主体的に選択できず、拡散してしまう
青年期		

# 1. 子どもの発達理解の基礎

## エリクソンの心理社会的発達理論

心理社会的危機（発達課題）		特徴例
親密性	孤独	就職や結婚を通じて他者と深く付き合うことで親密性が得られるが、うまく付き合えないと孤独を感じざるをえなくなる
成人初期		
世代性	停滞	生産的に仕事をこなし、家庭を築き、次世代の育成に力を注ぐ一方、喜びが感じられない、責任を請け負おうとしなければ停滞感に陥る
成人中期		
統合	絶望	これまでの人生を振り返り、統合していく時期だが、幸福感や充実感が得られないと、人生をやり直す時間がないことに焦り、絶望する
成人後期		

# 1. 子どもの発達理解の基礎

## ピアジェとエリクソンの発達段階

年齢	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ピアジェ	感覚運動期	前操作期			具体的操作期					形式的操作期			
エリクソン	乳児期	幼児期前期	幼児期後期	児童期					青年期				

※すべての子どもの行動を発達段階だけで説明できるわけではない

→障害、児童虐待、貧困等の影響も

☆個々の子どもに合わせた対応が必要

本動画のまとめ

- 大人は子どもの頃をはっきり覚えているわけではないので、発達を学ぶ必要がある
- 発達段階に応じて、子どもの見せる姿は変わる
- すべての子どもを発達段階で説明できるわけではなく、障害等を踏まえて個々への関わりを考える必要

参考資料

古見文一・小山内秀和・樋口洋子・津田裕之（編）はじめての心理学概論. ナカニシヤ出版, 2019, 205p, 9784779513619

古見文一・西尾祐美子（編）はじめての発達心理学. ナカニシヤ出版

落合良行・楠見孝（編著）自己への問い直し: 青年期（講座生涯発達心理学4）, 金子書房, 1995, 256p, 47760892141

坂上裕子・山口智子・林創・中間玲子（編）問いからはじめる発達心理学. 有斐閣ストウディア, 2014, 217p, 9784641150133

科目3

子どもの発達理解と  
児童期（6歳～12歳）の生活と発達

1. 子どもの発達理解の基礎
  2. 発達面からみた児童期（6歳～12歳）の一般的特徴
  3. 子どもの遊びや生活と発達
- まとめ

## 2. 発達面からみた 児童期（6歳～12歳）の一般的特徴

## 2. 発達面からみた児童期（6歳～12歳）の一般的特徴

### 子どもの発達と児童期

乳児期、幼児期、児童期、思春期・青年期といったそれぞれの時期は、次の時期の単なる準備段階ではない

→それぞれの時期に応じた子どもへの対応が必要

おさらい

乳児期…家庭内での養育者との愛着の形成

幼児期…同年代の他者との関わり

児童期…学校生活

思春期・青年期…第二次性徴と親からの自立

## 2. 発達面からみた児童期（6歳～12歳）の一般的特徴

### 児童期の特徴

☆児童期の子ども（小学生）にどのようなイメージを持っていますか？

☆小学生は、どのような生活を送っているのでしょうか？

#### ・小学校での生活

- ✓ 基礎学力の形成
- ✓ 知的能力・言語能力の発達
- ✓ 規範意識の発達

#### ・親の目の届かない場所での友達同士の遊び

- ✓ 多様化した遊び
- ✓ 子ども集団の形成

## 2. 発達面からみた児童期（6歳～12歳）の一般的特徴

### 児童期の位置づけ

#### ☆ 幼児期との比較

- 幼児期…自主的に選択して遊ぶことが可能  
保護者主導の友人関係  
親や保育者等に見守られた中での遊び
- 児童期…決められた時間割に沿って、集団で学習する  
子ども主導の友人関係（物理的距離から心理的距離へ）  
子ども同士でのみの活動

#### ☆ 思春期・青年期との比較

- 児童期…友人関係を大きめの集団で形成  
性別混合での遊びから、同性グループでの遊びへ
- 思春期・青年期…特定の友人との親しい関係の形成  
異性を意識

## 2. 発達面からみた児童期（6歳～12歳）の一般的特徴

### 児童期の特徴

小学1年生と6年生では大きな違いがある（変化が著しい）

	1年生	6年生
身長	116.5 cm (男子)	145.1 cm (男子)
認知	目の前にある物体をヒントに思考	頭の中で抽象的に思考
他者理解	1次の誤信念	2次の誤信念
友人関係	一緒に遊ぶことが中心	内面的な交流を求める
学校の課題	読み書き計算など基礎的な課題	科学, 社会など高度な課題

## 2. 発達面からみた児童期（6歳～12歳）の一般的特徴

改訂版放課後児童クラブ運営指針解説書, 2021年  
放課後児童支援員都道府県認定資格研修教材, 2020年

### 児童期の発達の特徴

☆ものや人に対する興味が広がり、その興味を持続させ、興味の探求のために、自らを律することが可能に

→脳機能の発達

☆自然や文化と関わりながら、身体的技能を磨き、認識能力を発達させる

→ピアジェの発達段階（別項目で詳しく説明）

## 2. 発達面からみた児童期（6歳～12歳）の一般的特徴

改訂版放課後児童クラブ運営指針解説書, 2021年  
放課後児童支援員都道府県認定資格研修教材, 2020年

### 児童期の発達の特徴

☆学校や、放課後児童クラブ、地域等、子どもが関わる環境が広がり、多様な他者との関わりを経験するようになる

→社会性の発達（別項目で詳しく説明）

☆集団や仲間です活動する機会が増え、その中で規律と個性を培うとともに、他者と自己の多様な側面を発見できるように

→道徳性の発達

☆発達に応じて、親からの自立と親への依存、自信と不安、善悪と損得、具体的思考と抽象的思考等の様々な心理的葛藤を経験

→思春期・青年期への準備、葛藤との向き合い

## 2. 発達面からみた児童期（6歳～12歳）の一般的特徴

### 脳機能の発達と子どもの実態

☆ 幼児期から引き続き発達（思春期・青年期も継続して発達）

例

- 切り替える力…目標や手順などの構えを切り替える  
(例) たかオニの次に普通のオニごっこ
- 覚えておく力…情報を保持したまま処理を加える  
(例) 暗算
- 我慢する力…自動的な行動や反応を抑える  
(例) 後出しじゃんけんではわざとまける

## 2. 発達面からみた児童期（6歳～12歳）の一般的特徴

### 脳機能の発達

文字の色をできるだけ早く  
上から読み上げてください

☆ストループ課題

(Stroop, 1935)

文字をそのまま読み上げるの  
ではなく、インクの色を読みあ  
げる課題

→我慢する力を測定する課題

みどり	くろ	あか	あお
くろ	みどり	あお	きいろ
あか	あお	きいろ	くろ
みどり	あか	あお	きいろ
あか	みどり	くろ	あお
きいろ	あお	あか	みどり

## 2. 発達面からみた児童期（6歳～12歳）の一般的特徴

### 脳機能の発達

☆子育て支援（放課後児童支援）で注意すること

- 切り替える力：切り替えのタイミング（見通し）をあらかじめ伝えておく  
→急に遊びをやめて帰る準備をするように言われても切り替えられないかも…最初から見通しを伝えておくのがよい
- 覚えておく力：一度にたくさんのことを伝えない  
→たくさん聞いても覚えておけないかも…伝えることは要点を絞って少しずつ
- 我慢する力：何かを我慢することができたらほめてあげる  
→規律に従って、何かを我慢することは児童期の課題

※児童期の子どもの脳機能は発達の途上であることを忘れない

## 2. 発達面からみた児童期（6歳～12歳）の一般的特徴

### 道徳性の発達



Q.どちらがよりよくないことをしたでしょうか？

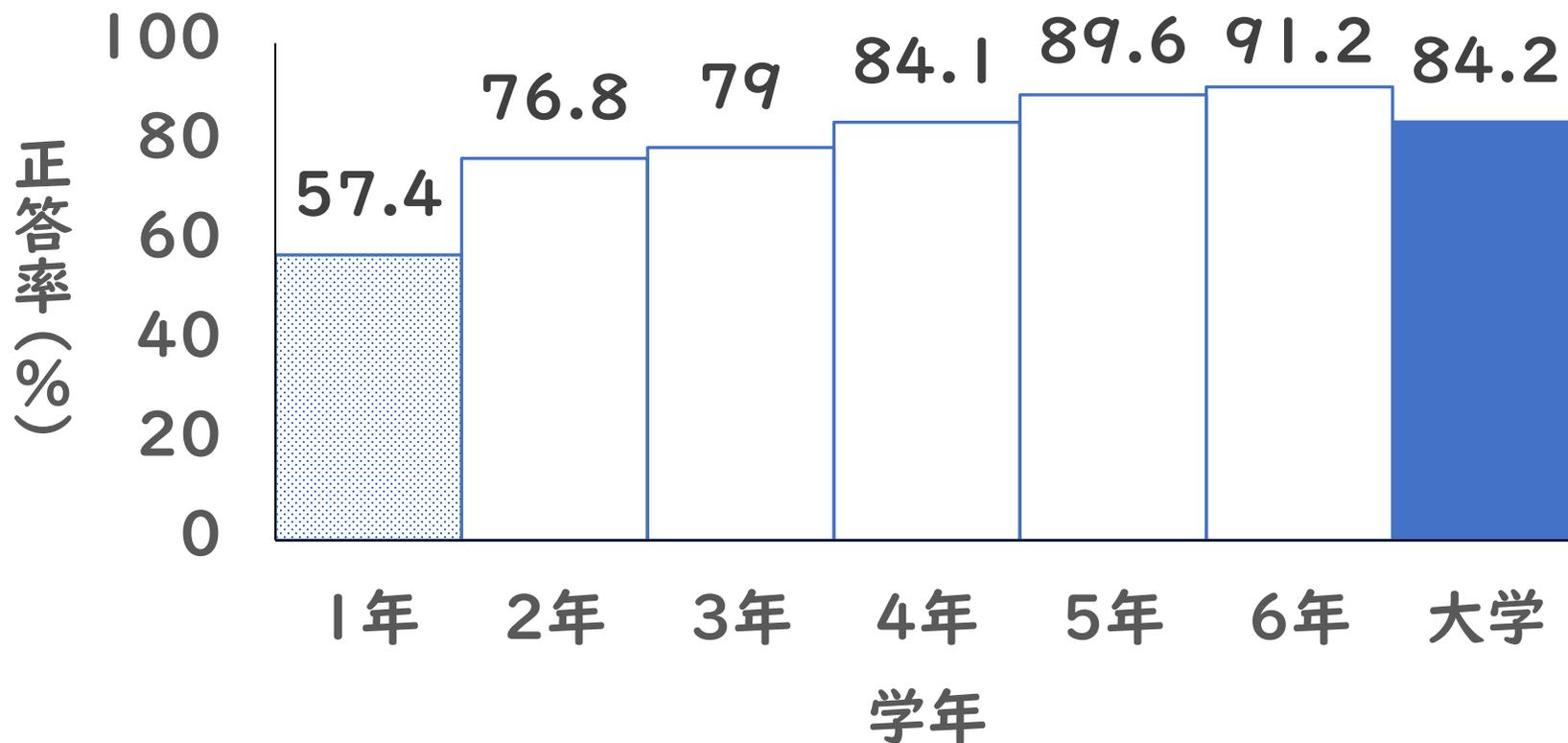
それとも同じくらいよくないことをしたでしょうか？

子安・西垣・服部（1998）絵本形式による児童期の〈心の理解〉の調査 京都大学教育学部紀要，44，p.1-23

## 2. 発達面からみた児童期（6歳～12歳）の一般的特徴

### 道徳性の発達

☆「いたずらしようとしたよしやくんの方が悪い」を正答とすると…



## 2. 発達面からみた児童期（6歳～12歳）の一般的特徴

### 思春期・青年期への準備と葛藤への向き合い

身体面での発達：児童期から思春期に移行

- ・第二次性徴（初経、精通など性的な成熟による生殖機能の違い）により、性の違いが明確化する



心理面での発達：子どもから「大人」になることへの不安や戸惑い

- ・第二次性徴は個人差が大きく、他者との違いに悩むことも
- ・これまで当然だった大人（親など）への依存状態との違いに戸惑い、自立しようとする一方、内心には心細さも抱えている



葛藤状況の中で大人と距離をとろうとする→反抗

## 2. 発達面からみた児童期（6歳～12歳）の一般的特徴

### 思春期・青年期への準備と葛藤への向き合い

- **第二次反抗期**：小学校高学年から中学生頃に生じる第二性徴によって、心理的に不安定になり、親や教師、社会に対して反抗的な態度に出る
- 第二次反抗期の子どもの特徴と関わりで大切なこと
  - ✓ 反抗の様式（例：暴力、口答え）はその子ども、状況により異なる
  - ✓ 反抗には、その大人との関係性や他の状況（学校、家庭など）が関連
  - ✓ 反抗は、大人からの心理的自立に向かう一過程である
  - ✓ 葛藤状況にあるということを理解しつつ、程よい距離感を保つ（例：根掘り葉掘り聞かない、子どもの方から話すのを待つ）
  - ✓ ただし、してはいけないこと（例：犯罪につながる恐れのある非行）については、はっきりと制止する

本動画のまとめ

- 児童期は、決められたルールを守ることが求められるが、低学年ではまだ難しいことも多い
  - 児童期に、道徳的判断の変化がみられ、何が正しく、何が悪いかを自分で判断できるようになる
  - 高学年になると、思春期・青年期の入り口として、様々な葛藤状況を経験する
- 1年生から6年生までに大きな発達がみられる

# 参考資料

古見文一・西尾祐美子（編）はじめての発達心理学. ナカニシヤ出版

子安増生・西垣順子・服部敬子 絵本形式による児童期の〈心の理解〉の調査 京都大学教育学部紀要. 1998, 44, p.1-23

坂上裕子・山口智子・林創・中間玲子（編）問いからはじめる発達心理学. 有斐閣ストウディア, 2014, 217p, 9784641150133

科目3

子どもの発達理解と  
児童期（6歳～12歳）の生活と発達

1. 子どもの発達理解の基礎
2. 発達面からみた児童期（6歳～12歳）の一般的特徴
3. 子どもの遊びや生活と発達

まとめ

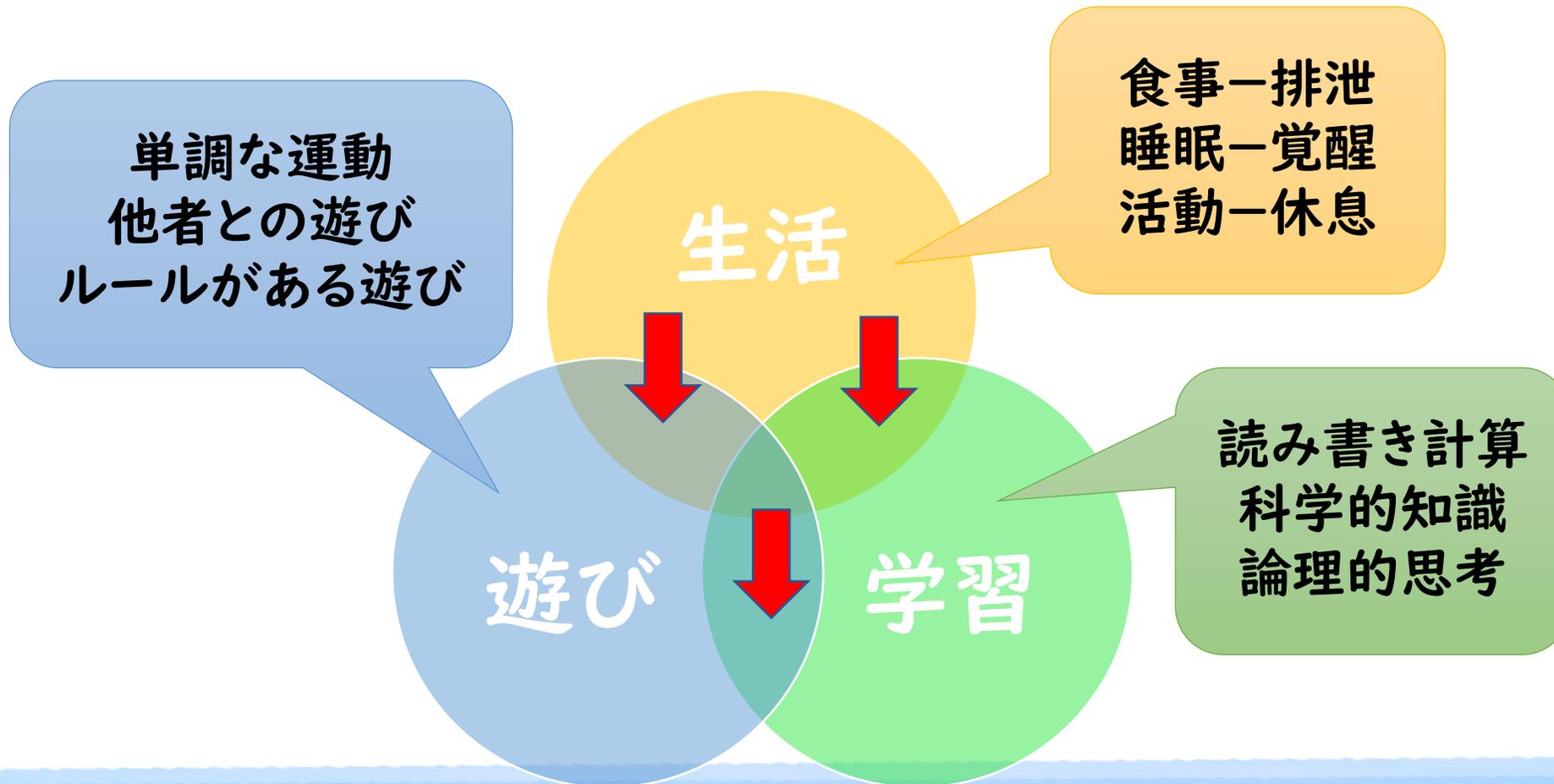
### 3. 子どもの遊びや生活と発達

# 3. 子どもの遊びや生活と発達

放課後児童支援員都道府県認定資格研修教材, 2020年, p.49

## 子どもの日常

☆子どもの日常は様々な側面での体験で成り立っている



# 3. 子どもの遊びや生活と発達

## 遊び

改訂版放課後児童クラブ運営指針解説書, 2021年, p.46-47  
放課後児童支援員都道府県認定資格研修教材, 2020年, p.50

### ☆子どもにとって最も自主的で真剣な活動

- 何をして遊ぶか、誰と遊ぶか、いつまで遊ぶかなど、自分で決めることができる  
←遊びは、自由な活動であり、強制されれば、魅力的な愉快的な楽しみという性質を失ってしまう(カイヨワ, 1990)
- 遊びの中で、子どもは自らの知恵や技能を存分に発揮できる
- 遊びは、どんな相手とも平等に交わることが保証されている
- 遊びの中で、子どもは様々なことを学習し、様々な能力を発達させる

→子どもは、遊びを通して成功や失敗の経験を積み重ねていく

※子どもが遊びに自発的に参加し、遊びの楽しさを仲間の中で共有していくためには大人の援助が必要な場合もある

# 3. 子どもの遊びや生活と発達

## 遊び

改訂版放課後児童クラブ運営指針解説書, 2021年, p.47

放課後児童支援員都道府県認定資格研修教材, 2020年, p.50

☆大人世代から子ども世代、ある地域から他の地域へと継承される文化  
→より楽しい様々な遊びについて探求し、適切な形で子どもに伝えることや、子どもとともに遊びを創造していく必要がある

オニごっこ:オニを1人決め、逃げられる範囲も決めたとうえで、オニはメンバーを追いかける。オニにタッチされたら、タッチされた人がオニになり、もとのオニは逃げる方にまわる。

氷オニ:オニごっこのルールに、オニにタッチされると、その場で凍って動けなくなるルールを加えたもの。凍った人は、オニ以外の他の人にタッチされると動けるようになる。

電子レンジオニ:氷オニのルールから、凍っている人を助けるためには2人でその人を囲んで電子レンジの役を行う必要があるように変更したもの

※子ども自身も遊びを伝承していくことで、誇りや自信を深めることにも

# 3. 子どもの遊びや生活と発達

## 子どもの遊びと社会性の発達

☆子どもは遊びや日常生活を通して、他者とのコミュニケーションを学ぶ

- 相手が何を考えているのか
- 相手がどうしてほしいと思っているのか
- 相手が何をしようと思っているのか
- 相手がどんな気持ちなのか

(例) ババ抜き：自分がジョーカーを持っているときは、それを隠す

自分がジョーカーを持っていないときは、他の人の様子（感情の動きなど）からジョーカーをだれが持っているか推測する

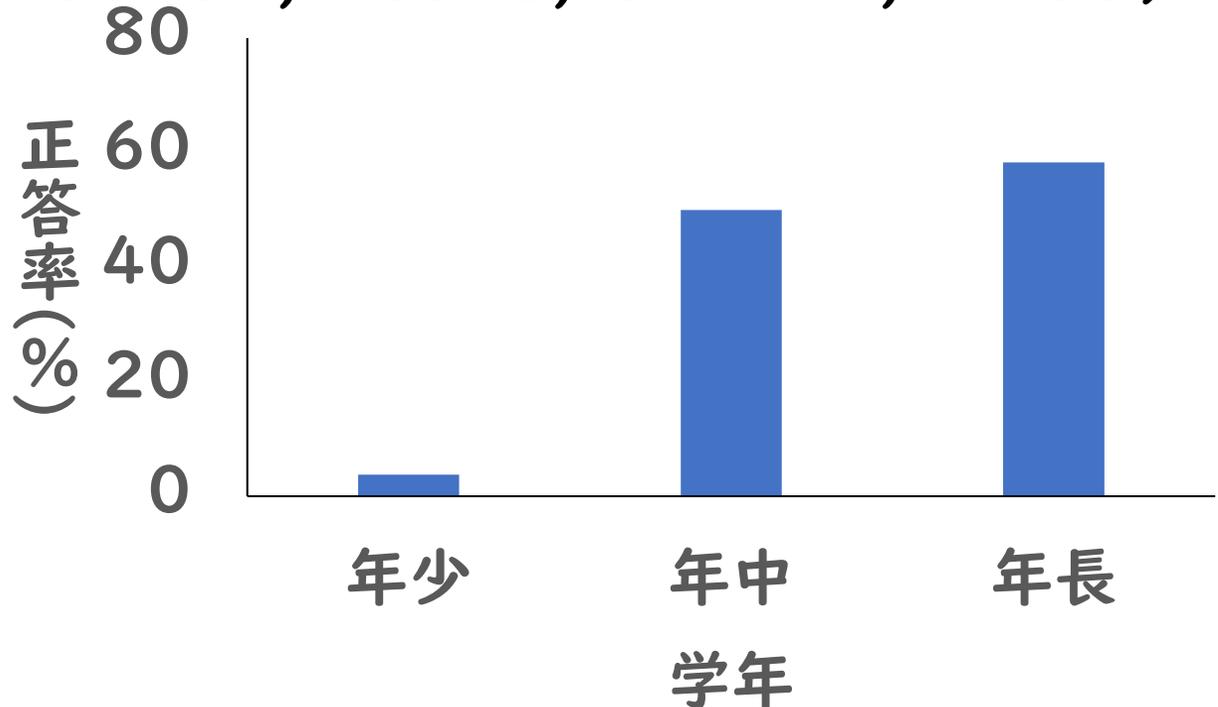
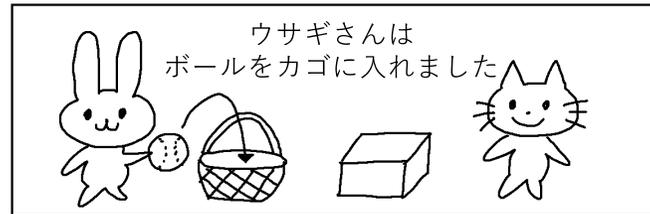
※**心の理論** (Premack & Woodruff, 1978)の発達

自己および他者に心的状態を帰属する能力

# 3. 子どもの遊びや生活と発達

## 心の理論の発達

### ☆サリーとアンの課題 (Baron-Cohen, Leslie, & Frith, 1985)



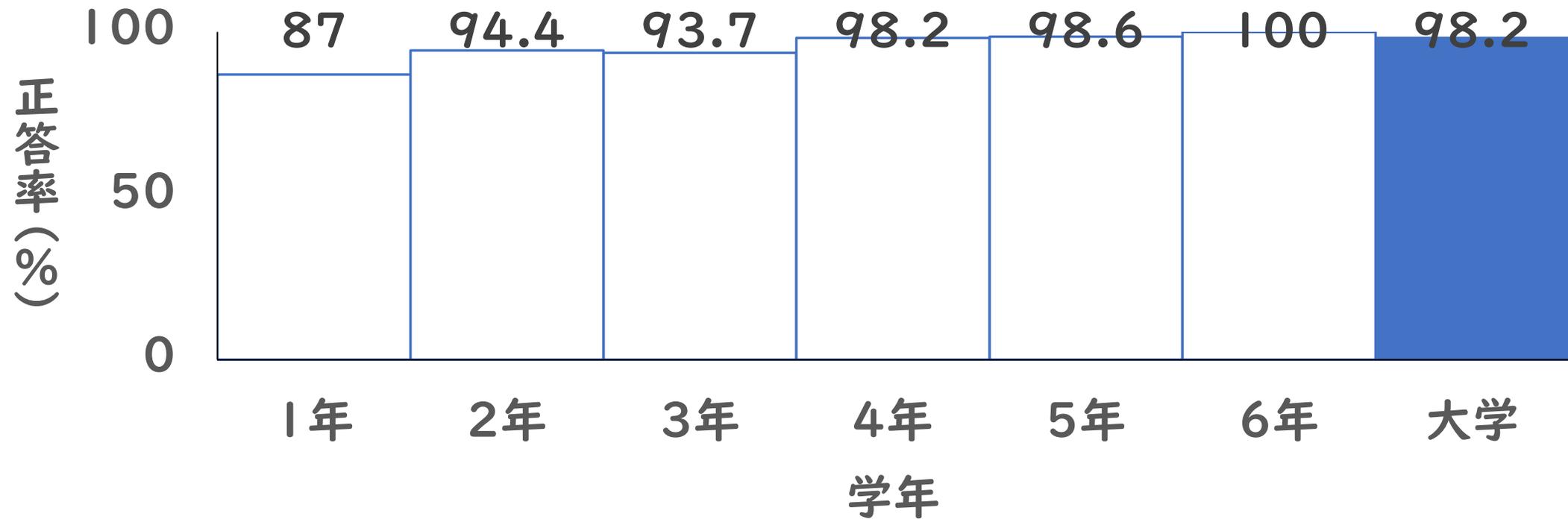
古見・小山内・大場・辻 (2014) 他児の知識状態や自己の役割が幼児の発話の変化に及ぼす影響: 絵本の読み聞かせ場面を用いて, 発達心理学研究, p.313-322をもとに作成

古見・西尾 (2022) はじめての発達心理学, ナカニシヤ出版

# 3. 子どもの遊びや生活と発達

## 心の理論の発達

☆サリーとアンの課題 (Baron-Cohen, Leslie, & Frith, 1985)



子安・服部・西垣 (1998) 絵本形式による児童期の〈心の理解〉の調査 京都大学教育学部紀要をもとに作成

# 3. 子どもの遊びや生活と発達

## 心の理論の発達

### ☆アイスクリーム屋さん課題 (Perner & Wimmer, 1985)

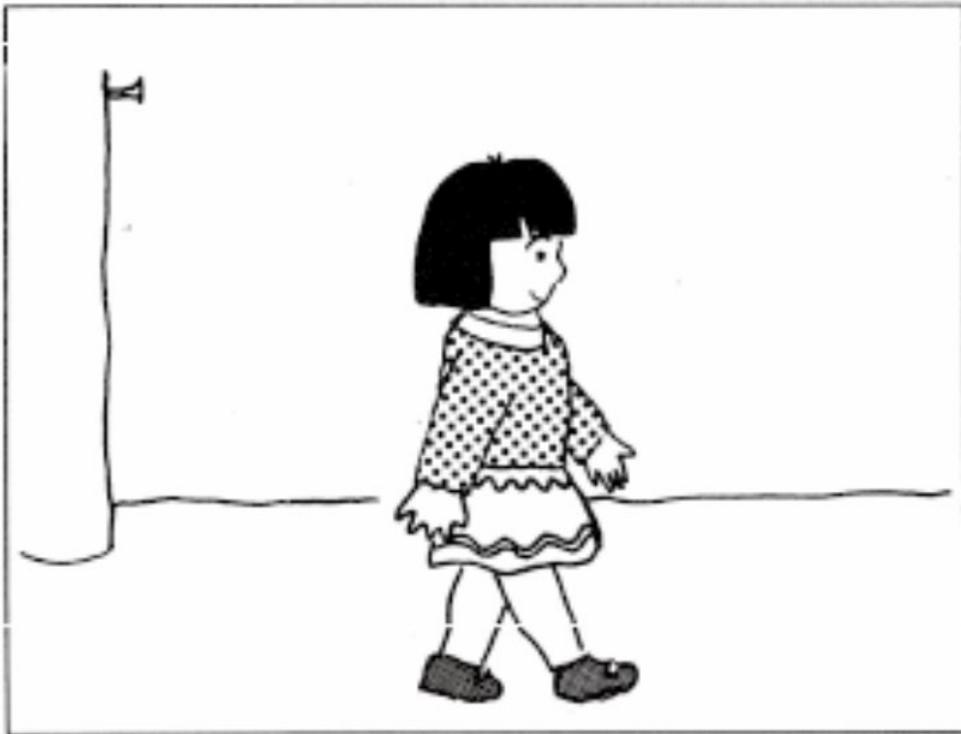


はるなさんと、きみえさんが、公園で遊んでいました。はるなさんは、アイスクリームを買いたいのですが、お金を持っていません。アイスクリーム屋さんは「今日はずっとこの公園にいるからあとでおかねを持って買いに来るといいよ」とはるなさんにいいました。

# 3. 子どもの遊びや生活と発達

## 心の理論の発達

☆アイスクリーム屋さん課題 (Perner & Wimmer, 1985)



はるなさんは、少し遊んだ後、  
自分の家に帰っていきました。

# 3. 子どもの遊びや生活と発達

## 心の理論の発達

### ☆アイスクリーム屋さん課題 (Perner & Wimmer, 1985)

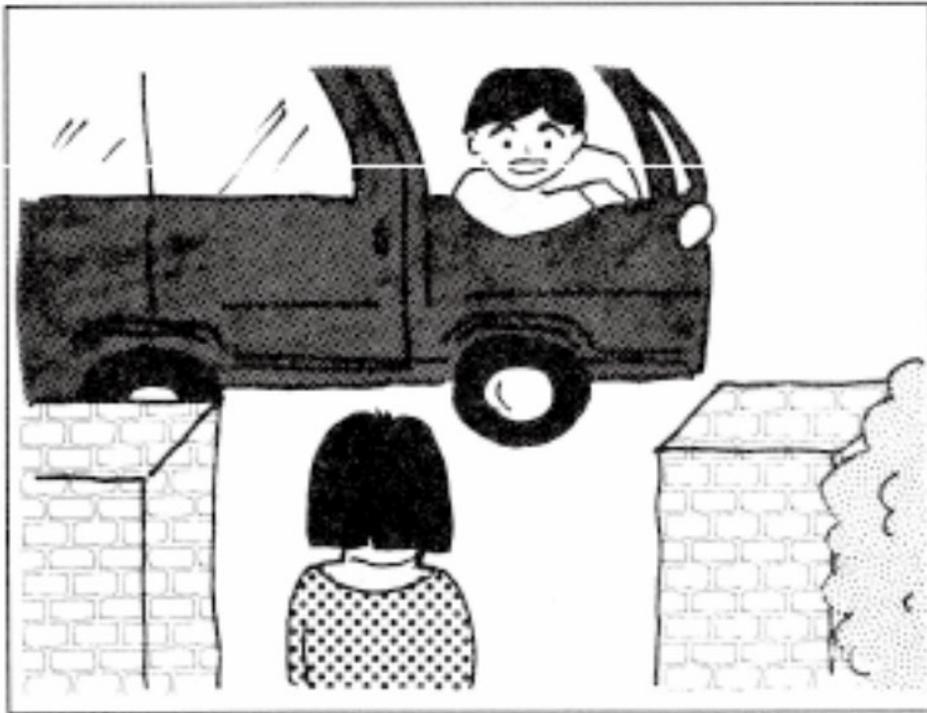


アイスクリームやさんは、ワゴン車を動かしてどこかへいこうとしています。びっくりしたきみえさんは、「おじさん、どこへいくの?」と聞きました。アイスクリームやさんは、「ここでは、買う人が少ないから、学校の前に移るところだよ」と答えました。

# 3. 子どもの遊びや生活と発達

## 心の理論の発達

### ☆アイスクリーム屋さん課題 (Perner & Wimmer, 1985)



アイスクリームやさんが、学校に行く途中、はるなさんの家の前で、はるなさんに会いました。アイスクリーム屋さんは「公園では、買う人が少ないから、学校の前に行くところだよ」とはるなさんに言いました。きみえさんは、このことを知りません。

# 3. 子どもの遊びや生活と発達

## 心の理論の発達

### ☆アイスクリーム屋さん課題 (Perner & Wimmer, 1985)



1時間ほどしてから、きみえさんは、はるなさんの家に行きました。家には、はるなさんのお母さんしかいませんでした。お母さんは「はるなは、アイスクリームを買いに行ったところよ」と言いました。

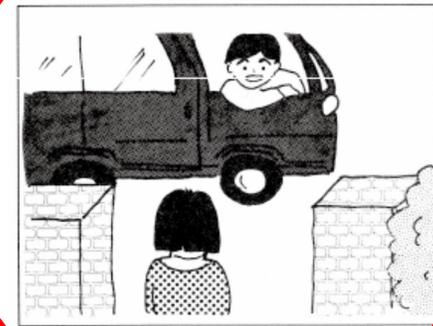
きみえさんは、はるなさんがどこにいていると思っているのでしょうか？

子安他(1998)絵本形式による児童期の〈心の理解〉の調査 京都大学教育学部紀要

# 3. 子どもの遊びや生活と発達

## 心の理論の発達

☆アイスクリーム屋さん課題 (Perner & Wimmer, 1985)

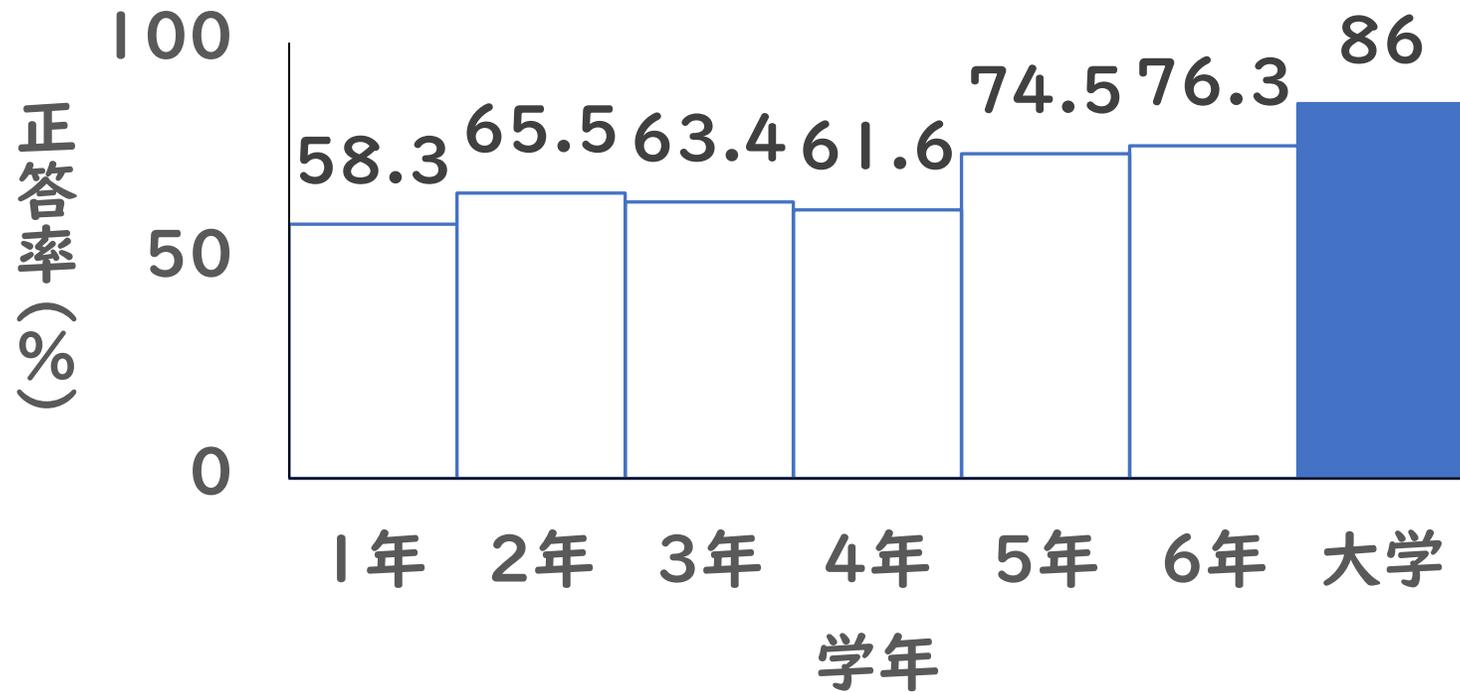


きみえさんは、はるなさんが公園にいていると思っている

# 3. 子どもの遊びや生活と発達

## 心の理論の発達

☆アイスクリーム屋さん課題 (Perner & Wimmer, 1985)



子安他 (1998) 絵本形式による児童期の〈心の理解〉の調査 京都大学教育学部紀要をもとに作成

# 3. 子どもの遊びや生活と発達

## 遊びや生活と心の理論

### サリーとアンの課題…他者がどう思うかの理解

- 嘘が理解できるように: 相手が知らないことを欺くことができる
- 「ふり」を理解できるように: ふり遊びやごっこ遊びを楽しむ  
(例) ハンカチ落とし…ハンカチを落としていないふりができる

### アイスクリーム屋さん課題…他者が第三者についてどう思うかの理解

- 児童期を通して正答率が上がる
- より複雑な人間関係が理解できるように  
(例) Aくんは、Bくんのことが苦手だから、Aくんと遊ぶときはBくんを誘わないでおこう…
- 複数の他者の心の読み取りが必要な遊びも可能に  
(例) 答えを合わせましょうゲーム: お題に沿って、全員で同じ答えを言えば正解

# 3. 子どもの遊びや生活と発達

## 仲間関係の発達

- 幼児期には、親同士の交友関係からの友人関係の割合が大きい



- 児童期には、対人関係に占める仲間（友達）の比重が増加し、親が関与しない友人関係が成立
  - 低学年では物理的距離の近さ（例：席が近い、家が近いなど）
  - 高学年では心理的距離の近さ（例：趣味が同じ、気が合うなど）



☆ギャンググループの結成

# 3. 子どもの遊びや生活と発達

## 仲間関係の発達

### ギャンググループ…小学校高学年頃

同一行動による一体感が重んじられ、「同じ遊びを一緒にする」ものが仲間であるというもの(⇒男子に特徴的)



### チャムグループ…中学校頃

同じ興味や関心(=共通点)を通じてできる仲間関係で、一体感が強い一方で仲間への同調が求められる(⇒女子に特徴的)



### ピアグループ…高校頃～

共通点だけでなく、互いに違う点も認めることができ、自立した個人として尊重し合う仲間関係(⇒性別・年齢を問わない)

# 3. 子どもの遊びや生活と発達

## 社会的比較と関係性攻撃

- 仲間関係が成立すると、そこには微妙な競争意識が生まれる
  - あの子の方が、自分よりも頭がいい…
  - 自分の方が、あいつよりも走るのが速い…

### →社会的比較

※社会的比較によって妬みなどのネガティブな感情も発生するように

- 気に入らない子を無視する
- 仲間外れをする

### →関係性攻撃

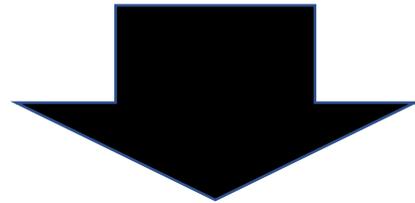
☆小学校高学年頃からみられることが多い

# 3. 子どもの遊びや生活と発達

改訂版放課後児童クラブ運営指針解説書,  
2021年, p.47-48

## 児童期の子どもへの支援・介入

- 子どもは加減がわからないことも多くある
  - 遊びに夢中になりすぎて、相手にけがをさせてしまう
  - 最初は遊びのつもりだったけど、次第に本気になってけんかになってしまう



- 大人の支援・介入が重要
  - 子どもの発達に応じた柔軟な介入
  - 児童期の子どもは、自立の途上
  - 大人の論理を持ち込みすぎない
  - たとえ「正しいこと」であっても、頭ごなしに介入しない

本動画のまとめ

- 児童期の子どもは、遊びの中で様々な能力を発達させる（身体能力・社会性など）
- 児童期には、より複雑な他者の心の理解もできるようになってくる
- 仲間関係も発達し、自立の途上である子どもには、頭ごなしに介入しない

# 参考資料

ロジェ・カイヨワ（多田道太郎・塚崎幹夫訳）遊びと人間．講談社学術文庫．1990, 390p, 4061589202

古見文一・西尾祐美子（編）はじめての発達心理学．ナカニシヤ出版

古見文一・小山内秀和・大場有希子・辻えりか 他児の知識状態や自己の役割が幼児の発話の変化に及ぼす影響：絵本の読み聞かせ場面を用いて，発達心理学研究．2014, 25, p.313-322

子安増生・西垣順子・服部敬子 絵本形式による児童期の〈心の理解〉の調査 京都大学教育学部紀要．1998, 44, p.1-23

科目3

子どもの発達理解と  
児童期（6歳～12歳）の生活と発達

# もくじ

1. 子どもの発達理解の基礎
2. 発達面からみた児童期（6歳～12歳）の一般的特徴
3. 子どもの遊びや生活と発達

まとめ

# まとめ

## 発達とは何か

- 発達とは、受精から死に至るまでの、質的な変化
  - 何かができるようになるだけでなく、何かができなくなることも発達
- 子どものことを知るためには発達を学ぶ必要
  - 自分の記憶だけでは、はっきり覚えていないことも多く不十分
- 子どもの発達には環境要因が必須
  - 「子どもの最善の利益」を追求するためには、子どもの立場から環境のあり方一つ一つが丁寧に検討される必要がある
- 子どもは、生活や遊びにおいても学習においても成功や失敗を繰り返しながら成長していく
- 「子どもとはこういうものだ」「子どもはこうあるべきだ」という固定観念に縛られず、狭い経験だけに頼ることなく子どもの発達を学び続けることが重要

## 発達の時期区分と特徴

- 乳児期…完全に大人に依存している時期
  - 乳児期前半は仰臥位や伏臥位での生活を特徴として、おはしゃぎ等を通じて親と心理的な交流を図る。
  - 乳児期後半は座位での生活と四つ這い移動を特徴とし、情動による関わりを展開
  
- 幼児期…友達関係を成立させて、次第に親から自立し始める時期
  - 幼児期前半は二足歩行を確立し、道具の使い方が巧みになり、言語コミュニケーションが進む
  - 第一次反抗期を迎え、親と対立しながら自我を確立
  - 幼児期後半には、虚構的世界を共有しながら、子ども同士でも遊ぶように

## 発達の時期区分と特徴

- 児童期…ものや人の世界に対する興味が広がり、その興味の持続・探求のために自らを律することができるようになって、自らを律することができるようになり、学校での学習も可能に
  - 児童期前半には、学習を通じて様々な知識をふやすとともに、他の子どもや大人の多様な人格についても経験する
  - 児童期後半には、子ども集団が規律と個性を培っていく
  
- 青年期…性的な成熟をきっかけにした第2の自我の誕生の時期。
  - 青年期前半は思春期とも呼ばれ、自分の変化に戸惑い、自分のことを気にするように
  - 青年期後半には、友情や恋愛を経験し、自分の個性や能力を自覚し、世界観を獲得し、職業についての選択や準備をする

## 子どもの発達理解の基礎

### ➤ ピアジェの発達段階

- 子どもの認知発達について、操作という概念を用いて4つの段階に分けた
  1. 感覚運動期
  2. 前操作期
  3. 具体的操作期
  4. 形式的操作期

### ➤ エリクソンの心理社会的危機

- 人生の中で、人は、その後の発達に（プラス／マイナス）となる特質が優勢となる方向へ発達するののかの分かれ目に繰り返し立つ
  - ✓ （例）児童期では、自らの課題に挑戦し、それを成し遂げると有能感を抱く。課題を上手く成し遂げられないと、他者と比べて上手くできないという劣等感に悩む

## 子どもの発達からみた児童期の位置

- 子どもは、胎児期、乳児期、幼児期、児童期、思春期・青年期といった時期を経て、大人になっていく
  - ・ 各時期は次の時期の単なる準備段階ではなく、固有の意味と価値をもつ
  - ・ 子どもは発達過程において、それぞれの時期に応じた「子どもの最善の利益」に基づく生活が保障されなければならない
- 6歳～12歳を児童期と呼び、幼児期と思春期・青年期の間にある
  - ・ 児童期には、幼児期の発達的特徴を残しつつ、思春期・青年期の発達的特徴の芽生えがみられる
- 子どもは、家庭や学校、地域社会の中で育まれる
  - ・ 大人との安定した信頼関係の下、「学習」「遊び」等の活動、十分な「休息」「睡眠」「食事」等が保障されることで、子どもは安心して生活し、育つことができる
  - ・ 児童期の子どもの生活は、学校、放課後、家庭のサイクルが基本となる

## 児童期の発達の主な特徴

- ものや人に対する興味が広がり、その興味を持続させ、興味の探求のために自らを律することができるようになる
- 自然や文化と関わりながら、身体的技能を磨き、認識能力を発達させる
- 学校や放課後児童クラブ、地域等、子どもが関わる環境が広がり、多様な他者との関わりを経験するようになる
- 集団や仲間で活動する機会が増え、その中で規律と個性を培うとともに、他者と自己の多様な側面を発見できるようになる
- 発達に応じて「親からの自立と親への依存」、「自信と不安」、「善悪と損得」、「具体的思考と抽象的思考」等、様々な心理的葛藤を経験する

## 発達面からみた児童期の一般的特徴

- 児童期は、ピアジェの発達段階では、前操作期の後半～具体的操作期～形式的操作期前半にあたる
  - 質的な発達変化が大きくみられるため、移行期の難しさに注意
- エリクソンの心理社会的危機では、勤勉対劣等感
  - 規則・ルールを守って行動することが求められる
- 脳機能の発達
  - 我慢したり、切り替えたりする能力もまだまだ発達の途上
- 道徳性の発達
  - 結果だけでなく、動機にも着目して道徳判断ができるように
- 様々な葛藤の経験
  - 高学年になると第二次反抗期へ

## 子どもの発達における遊びの役割

- **遊びは子どもにとってもっとも自主的な活動**
  - 何をして遊ぶか、いつまで遊ぶか等、遊びへのかかわり方は子ども自らが決めることができるもの
- **子どもにとって、遊びは総合的活動であり、子どもは遊びの中で様々なことを学習し、遊びを通して運動能力や社会性、創造性等を発達させる**
  - 個性を発揮するようになる
- **遊びは文化であり、大人世代から子ども世代へと、ある地域から他の地域へと継承されていくもの**
  - 大人はより楽しい様々な遊びについて探求し、適切な形で子どもに伝える
  - 子どもと一緒に創造していく→子どもの誇りや自信を深めることにも
- **児童期の子どもの遊びには大人の支援が重要な役割を果たす**
  - たとえ「正しいこと」であっても、頭ごなしに介入しない

## 子どもの社会性の発達の理解

- 児童期の子どもの社会性は、遊びにおいて最も発揮される
  - 子どもは楽しく遊ぶために、遊びの中で他の子どもの諸能力を読み、自他の特徴を生かしたり、演技をしたりとあらゆる工夫をする
- 子どもは遊びの中で、他者と自己の多様な側面を発見できるように
  - 集団での遊びを継続するために、自身の欲求と相手の欲求を同時に成立させるすべを見出す
- 遊びを通じて、他者との共通性と自身の個性とに気づいていく
  - 協力することや競い合うことを通じて、自分自身の力を伸ばしていく
- 自己中心性の克服から加減を知るように
  - 遊びにおける成功や失敗の経験を通じて他者の視点を理解していく

## 子どもの遊びや生活と発達

- 児童期にも、他者の心の理解の発達は続いている
  - 他者の心の理解（児童期に入るところに達成）
    - ✓ Aくんは、〇〇と思い込んでいることがわかる
  - 複数の他者の心の理解（児童期を通して発達）
    - ✓ Aくんは、「Bくんが〇〇と思っている」と思い込んでいることがわかる
- 仲間関係の発達がみられる
  - 自分で主体的に友人関係を築くようになり、ギャンググループの結成へ
    - ✓ ギャンググループ…同一行動による一体感が重んじられ、「同じ遊びを一緒にする」ものが仲間であるというもの
- 複雑な感情の発達がみられる
  - 社会的比較から、妬みなどのネガティブな感情ももつように
    - ✓ あの子の方が僕よりも頭が良い…

## 最後に

- ・子どもの発達は、時代や地域などの環境によっても影響がある
- ・子どもひとりひとりを理解し、発達を支援できるように、実際の子どもの姿と理論を結び付け、目の前の子どもへの対応を自分で考えられるように

この研修動画の視聴後も、引き続き振り返りを行い、学び続けてください